

2024年（令和六年） 9月13日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階
ホームページ <https://oil-info.iecej.or.jp>

■ 概況

当週(9月5日～11日)の国際石油市場は、米中の軟調な景気指標を受け、石油需要減速懸念、OPECの先行き需要見通し下方修正で、軟化で始まったが、メキシコ湾へのハリケーン襲来懸念、OPECプラスの自主減産緩和(増産)の2か月延期の発表もあり、反発、その後反落するとの不安定な動きだった。

NYのWTI原油先物市場は、5日、4営業日続落の69.15ドルで始まり、続落が続く、10日には65.75ドルと約2年ぶりの安値を付け、ウクライナ侵攻以前の水準に戻った形が、9日と11日は反発し、11日67.31ドルで終わった。

また、中東産ドバイ原油/東京市場(10月渡し)も、前週(8月29日～9月4日)73.50～77.80ドルの範囲で推移したが、当週は、9月5日73.40ドル、6日73.40ドル、9日72.60ドル、10日72.40ドル、11日70.00ドル。

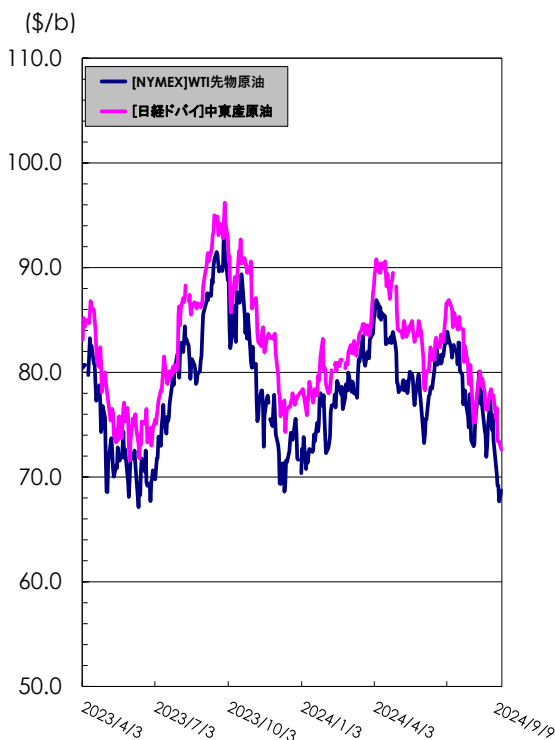
対ドル為替レート(TTM)は前週(8月29日～9月4日)144.53～147.16円の範囲で推移したが、当週は、9月5日143.79円、6日143.24円、9日142.78円、10日143.53円、11

日142.12円となった。

財務省が9月6日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、8月中旬の原油輸入平均CIF価格82,040円で前旬比3,835円安、ドル建て86.95ドルで前旬比0.53ドル安、為替レートは1ドル/150.03円。

そのような中で、9月9日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.1円の値上がり、軽油も同0.1円の値上がり、灯油は同3円の値下がり(18リットルベース)、ガソリンの全国平均価格は174.5円となった。9月12日～18日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は12.6円(補助金がない場合の次週予想価格187.4円で、固定支給部分10.2円、185円を超える変動支給部分は2.4円)となった。

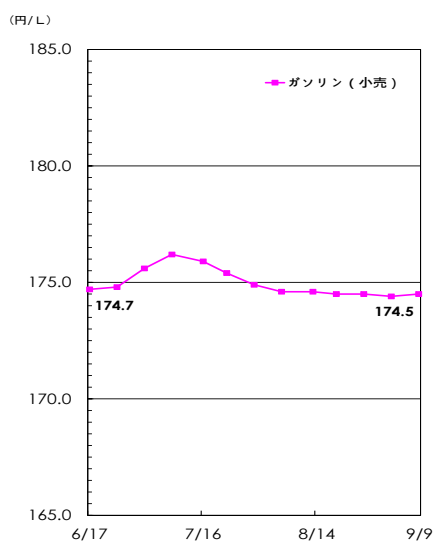
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	9/1 ~ 9/7	2,629 ▲117	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	75.9 ▲3.3	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	9/7	11,272 ▲355	▼ -
価格	中東産原油(日経ドバイ) (\$/bbl)	9/9	72.60 ▼3.00	▼-18.9
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	9/9	68.71 ▼1.63	▼-18.6
	原油CIF単価 (\$/bbl)	8月中旬	86.95 ▼0.53	▲4.79
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	82,040 ▼3,835	▲8,471
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	150.03 ▲6.04	▼-7.67
	外国為替TTSレート (¥/\$)	9/9	143.78 ▲3.46	▲4.19



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	9/1 ~ 9/7	774 ▼ -37	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	647 ▼ -115	▼ -
	輸出	"	50 ▲ 10	▼ -
	在庫	9/7	1,493 ▲ 78	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 9/3 ~ 9/9	81.0 ➡ 0.0	▼ -9.0
		(TOCOM/中部) 9/9	80.0 ➡ 0.0	▼ -7.5
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 9/9	174.5 ▲ 0.1	▼ -10.3

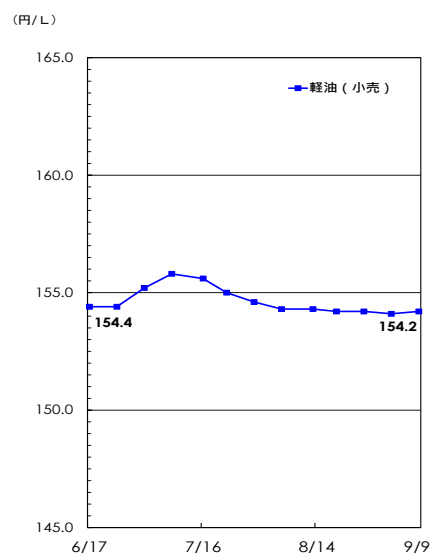
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

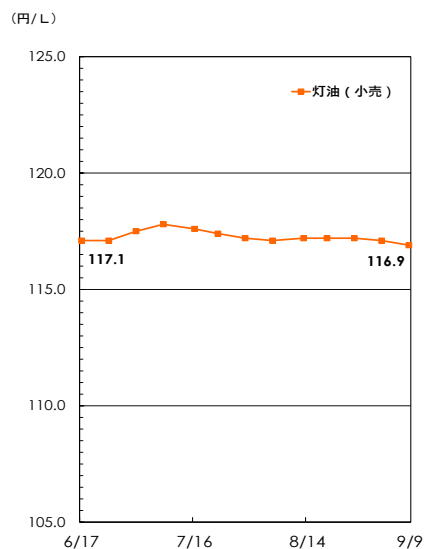
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	9/1 ~ 9/7	620 ▲ 49	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	562 ▲ 94	▼ -
	輸出	"	123 ▲ 91	▼ -
	在庫	9/7	1,483 ▼ -66	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 9/3 ~ 9/9	81.1 ▲ 0.3	▼ -9.9
		(TOCOM/中部) 9/9	-	-
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 9/9	154.2 ▲ 0.1	▼ -10.1

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	9/1 ~ 9/7	142 ▼ -77	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	59 ▲ 51	▼ -
	輸出	"	29 ▼ -19	▲ -
	在庫	9/7	2,114 ▲ 54	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 9/3 ~ 9/9	80.0 ➡ 0.0	▼ -8.0
		(TOCOM/中部) 9/9	80.0 ▲ 1.0	▼ -6.2
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 9/9	116.9 ▼ -0.2	▼ -7.1



■ 関連情報

1 海外/原油（WTI原油先物市場）

前週(8/29~9/4)のNYMEX・WTI先物市場は69.20~75.91ドルの範囲で推移した。

当週、9月5日は、この日発表の米国石油在庫が市場予想を上回る取り崩しであり、この日電話会議を行ったOPECプラスも、自主追加減産の緩和の実施を2か月延期で合意したと発表されたが、米国内の一部の経済指標が軟調で、景気懸念が広がったことから、わずかながら、4営業日続落した。10月物終値は前日比0.05ドル安の69.15ドル。

週末6日は、8月の米国雇用者の増加が予想を下回ったこと、米国株式も低迷したことから、経済先行き懸念が拡大し、5営業日続落した。10月物終値は同1.48ドル安の67.67ドル。

9日は、メキシコ湾で熱帯低気圧が発生、ハリケーンに発達中となる予想で、そのため米国ルイジアナ州・テキサス州の産油・精製施設への影響が懸念されることから、6営業日ぶりに反発した。リビアにおける供給不安も値上がり要因。

10月物終値は同1.04ドル高の68.71ドル。

10日は、中国の8月の輸入額は前年同月比0.5%増と伸びは大幅に鈍化、また、OPEC月報は、2024年・25年の世界石油需要見通しをわずかながら下方修正、米中を中心とする世界経済の先行き懸念が拡大し、大幅に反落、2021年12月以来2年9か月ぶりの安値を記録した。10月物終値は同2.96ドル安の65.75ドル。

11日は、発達中のハリケーン「フランシーヌ」のメキシコ湾の原油生産・石油生産施設への襲来懸念から、反発した。最近の安値に伴う安値拾いの買いも多かった。ただ、米国石油製品在庫の積み増し発表に伴う需給緩和感も上値を抑えた。10月物終値は同1.56ドル高の67.31ドル。

2 海外/米国石油市場

9月11日発表の9月6日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国内週間在庫統計は、原油在庫が前週比80万バレル増と、市場予想(100万バレル増)を下回ったが、ガソリン・中間留分の在庫はいずれも230万バレル増と大幅な積み増しで、需給緩和への警戒感が高まった。

EIAによると9月9日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比5.3セント安の1ガロン3.236ドル(122.8円/ℓ)と6週連続の値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比7.0セント安の1ガロン3.555ドル(134.9円/ℓ)と9週連続の値下がり。

ベーカーヒューズ社によると、9月6日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比横ばいの483基と3週連続

の横ばいとなった。

3 国内/製品出荷量

石連週報によれば、2024年9月1日~9月7日に休止したトッパー能力は31.5万バレル/日で、前週に対して16.9万バレル/日減少した(全処理能力は311.0万バレル/日)。

原油処理量は262.9万klと、前週に比べ11.7万kl増加。前年に対しては22.0万klの減少。トッパー稼働率は75.9%と前週に対して3.3ポイントの増加、前年に対しては1.0ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、灯油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/4.6%減、ジェット/20.6%増、灯油/35.1%減、軽油/8.5%増、A重油/16.4%増、C重油/31.5%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比横ばい)。軽油の輸出は12.3万kl(前週比9.1万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べてガソリンが減少し、その他の油種で増加した。前年比ではジェット、A重油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は64.7万kl(対前週15.1%減)と2週振りに減少した。ジェット10.6万kl(対前週3.3%増)、灯油5.9万kl(対前週627.7%増)、軽油56.2万kl(対前週20.1%増)、A重油16.4万kl(対前週26.6%増)、C重油16.3万kl(対前週42.5%増)。

(単位:千L)

	今週 (9/1 ~ 9/7)	前週 (8/25 ~ 8/31)	前週比
ガソリン	647	762	▼ -115 (-15%)
ジェット燃料	106	103	▲ 3 (3%)
灯油	59	8	▲ 51 (638%)
軽油	562	468	▲ 94 (20%)
A重油	164	130	▲ 34 (26%)
C重油	163	114	▲ 49 (43%)
合計	1,701	1,585	▲ 116 (7%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

4 国内/製品在庫量

9月7日時点の在庫は、ガソリン、ジェット、灯油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては軽油が増加し、その他の油種で減少した。

ガソリンは149.3万kl、前週差7.8万kl増。前年に対しては9.9万kl少ない。

灯油は211.4万kl、前週差5.4万kl増。前年に対しては36.8万kl少ない。

軽油は148.3万kl、前週差6.6万kl減。前年に対しては6.8万kl多い。

A重油は66.7万kl、前週差2.2万kl減。前年に対しては10.6万kl少ない。

C重油は170.4万kl、前週差3.3万kl減。前年に対しては39.5万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (9/7)	前週 (8/31)	前週比
ガソリン	1,493	1,415	▲ 78 (6%)
ジェット燃料	782	715	▲ 67 (9%)
灯油	2,114	2,060	▲ 54 (3%)
軽油	1,483	1,549	▼ -66 (-4%)
A重油	667	689	▼ -22 (-3%)
C重油	1,704	1,737	▼ -33 (-2%)
合計	8,243	8,165	▲ 78 (1.0%)

5 国内/元売会社製品卸価格

9月3日～9日のドル建て中東原油価格は値下がり、為替レートもわずかに円高で、円建て輸入原油価格は値下がりし、元売会社の卸建値は値下がりしたものと見られる。補助金の減額が大きく、9/12～9/18の実質卸価格は小幅に値上がりとなる模様。

6 国内/製品小売価格

9月9日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円高の174.5円、軽油も同0.1円高の154.2円、灯油は18%ベースで同3円安の116.9円(1%ベースでも同0.2円安の116.9円)。ガソリンは9週ぶりの値上がり、軽油も9週ぶりの値上がり、灯油は2週連続の値下がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上りが20道県、横ばいは9県、値下がり18都府県だった。全国最安値は岩手県の167.2円、その次は宮城県169.6円であった。他方、最高値は長野県の183.2円。最も値上がりしたのは愛知県(同2.4円高)、最も値下がりしたのは千葉県(同1.4円安)だった。

次回調査時(9/17)のガソリンの小売価格は、小幅な値上がりが予想される。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (9/9)	前週 (9/2)	前週比	直近高値
レギュラー	174.5	174.4	▲ 0.1	23/9/4 186.5
灯油	116.9	117.1	▼ -0.2	08/8/11 132.1
軽油	154.2	154.1	▲ 0.1	08/8/4 167.4

※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。
次回 (2024第23号) の公表は、9/20 (金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場 (取引の中心限月) の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。